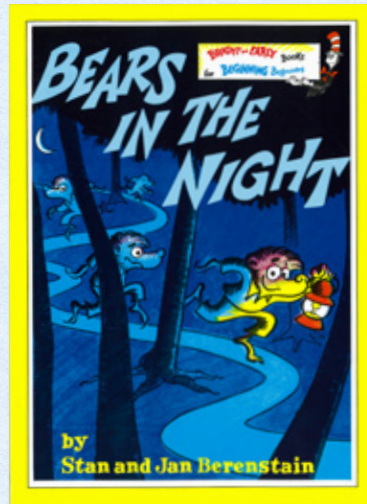


子どものための BOOK GUIDE

— 3 —



Bears in the Night

著者：Stan Berenstain
Jan Berenstain
出版社：HarperCollins

この絵本には、びっくりしました。30ページほどの物語なのですが、なんと次の24の単語だけで構成されているのです。

in, bed, out, of, to, the, window, at, down, tree, over, wall, under, bridge, around, lake, between, rocks, through, woods, up, spook, hill, back

もちろん、未就学児童向けの絵本なら、単語数の少ない作品もたくさんあります。しかし、これはちゃんと物語があって、おもしろく、また、小学生が声に出して読むのにもぴったりなのです。

どんな話かというと、7匹の子熊がベッドで寝ていると(In bed)、奇妙な声がきこえてくる。そこで、Out of bed, To the window, At the window, Out the window...と続いて、木を伝って下におりて(Down the tree), Over the wall. 橋の下をくぐって、湖を回って、岩の間を通過、林を抜けて、丘を登っていくと、大きなフクロウが大声でWHOOOO!(これは24の単語の中に入っていない)子熊たちはびっくりして駆け

戻って、最後は、Back in bed.

もうお気づきでしょう。動詞がひとつもないのです。英語圏の絵本を教材に使うとき、困るのは、幼い子向けのものでも平気で過去形が出てくることです。もちろん、それは当然で、現地の子どもたちは日常生活で、普通に過去形も未来形も使っているのですから。ところが、goの活用さえ習ってない日本の小学生にwentやgoneの出てくる絵本はとっつきにくい。その点、この絵本は無敵です。

それにしても驚くのは、動詞がなくても物語ができること！ それも動きがあって楽しい。Over the wall → Under the bridge → Around the lake...とリズムよく続いていくので、単語を隠して当てるクイズにも適しています。最初はbedやwoodsを隠して、そのうちOverやUnderといった前置詞を隠して。いろんな遊びができると思います。

蛇足ながら、Over the wallは「壁をこえて」ではありません。「塀をこえて」です。ついでに、Humpty Dumptyの歌もみんなできいっしょに歌いましょうか。

金原瑞人
かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど580点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。